

朝日寺だより

所代 寺
行日 總 大
朝日 寺 刷 刷
朝 印 市 西
岡 山 山 印
奥 山 山

新築なった便所及び玄關

来年(昭和五十九年)は お大師さま御遠忌

ありがたや
たかのやまの
いわかげに
大師はいまだ
おわしますなる



住職あいさつ

若松正隆

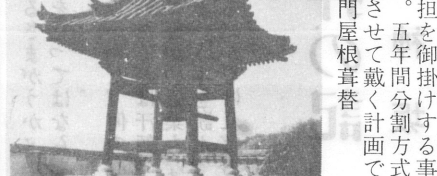


新年あけましておめでとございませぬ。年を経る毎に一年という期間がだんだん短く感じられます。それと共に過ぎ去った一年を無為に過したことの悔恨が胸に去来します。

その今年も今までの一年と変りのない一年にしかたない自分なりの、情性の決意にも燃えております。物質方面から心を豊かにしよう世の中の流れは定着したようございませぬ。何々カルチャーセンターとか教育委員会でも色々な教養・趣味・娯楽の講座が設けられています。果てはデパート、スーパーまでが種々の講座を設けています。元來寺院は地方文化の中心でした。地域の人は寺院を通じて文化の恩恵に浴したように感じます。しかし今現実を見ると寺院が過去と違って機能しなくなっています。かといふと自分の反省も込めて甚だ疑問でございませぬ。しかし寺院が信仰の中心として、もともとの教養・憩いの中心として機能しうることこそ寺院の維持興隆ははかれることと信じます。そういう意味で去年十月朝日寺密教婦人会が結成されました。これは誠に喜ばしいことといわなければなりません。結成式には木下町長ほかをお迎えし多数の会員の参加をいただき盛大に挙行されました。会長の児玉道子さんをはじめ委員の方々のご苦労があった訳でございませぬ。今後より一層の発展をお願いし朝日寺の大きな柱になつていただきたいと思ひます。開帳を機に結成されたご詠歌・ご詠歌舞踊の方々も去年は色々な大会・行事にも参加されました。大きな不安をもつてのご参加ではなかつたかと思ひますが、同じ大師信仰の方々、又朝日寺の檀信徒の方々に大きな心の潤いを与えられ、又自らの心の糧にもなれた事と思ひます。



門



塀及び鐘樓堂

明けて御目出度う御座居ます。旧年中は朝日寺の行事その他に就て格別の御協力を戴き厚く御礼申上げます。昨年の年頭朝日寺便りで皆様に御報告して居りますところの朝日寺修理計画につきましまして、総代会の中に修理の建設委員会を設置し次の委員

- 尻海西部 松井泰吾 尻海市場 島岡 篤
- 「数井」 木下俊郎 大土井 児玉正一
- 尾張 藤本安治 庄田西 三浦正幸
- 庄田東 三浦昌幸 福谷 内田 隆
- 渡内 千種司郎

次に計画は専門業者に荒見積を依頼しましたところ、山門、鐘樓、土塀の修理の総工費は約一千万円と言ふ金額と成りました。既に御報告致して居ります所々別般会計余剰金は一般会計に繰り入れて、先づ今年朝日寺を訪れた方々に大変不便を感じさせ居りましたところの便所の建設を決議して、早速各殿東側に工費二百五十万円で尾張の播洲屋の施工で七月二十二日に立派な便所が完成致しました。

総代会の方では去年一部塀の修築・玄關の便所の新築と相次いで修繕が行われました。建物の大半が二百五十年を越す歴史を有する為今後とも総代会の方々の負担に負うところが多しと思ひます。明五十九年は真言宗開祖弘法大師がお亡くなりになつてから千五十年の御遠忌です。高野山での大法会には朝日寺からも参加するよう予定して居りますが、ただ大法会に接するだけでなく、ひたすら濟世利民(世を救ひ民を益すること)を願われたお大師さまの精神をこの機会に一人一人の心に呼びもどしたいと思ひます。この一年が長い朝日寺の歴史の中で意味のある一年になるよう努めてまいりたいと思ひます。檀信徒の方々のお一層のご協力、ご叱咤をお願いいたします。

以上で修理が完了の計画ですが、皆様の御承知の通り年々諸物価の高騰もあり、最終年に於て工費の不足と言ふ事態が重なるおそれがあります。何と申しましても皆様の深い御理解と御協力が無い限り此の計画通りの修理も完遂出来ませんので何卒宜敷く御願申上げます。次に十月二十一日より一泊で四国霊場巡拝に多数参加戴き、全員無事で楽しく巡拝され御互の親睦と交流を計られた事と思ひます。私共総代会も参加したもので、納経作業の為、別車で行ったが皆様に同席する機会も少く、御世話も出来ず不行届の点は誠に申訳無く思つて居ります。又、巡拝の計画に就いても色々と不手際もあり檀家の方々には御迷惑を御掛けした点は深く反省して居ります。

次回も皆様の御健康と御多幸を祈りして新年の御挨拶にさせていただきます。

「総代会」より

総代長 吉田景時

皆様に御目出度うございませぬ。新しいこの年がより良い年でありますように心からお祈り申し上げます。昨年十一月二十一日朝日寺密教婦人会の結成式が盛大に挙行出来ました事は何よりご同慶の至りに存じます。そのことにつきまして委員の募集を致しましたところ、沢山の皆様の御賛同をいただき只今会員三百二十数名、まだご入会の地区もあるやに承つております。

結成式当日の事を、ご欠席の方もありますし、又一般の皆様方にもご理解頂く為に報告申し上げました。当日は天候にめぐまれ会場の朝日寺のお堂内にあふれんばかりの百数名とゆう会員の方々のご出席を得ました。その上木下町長さん、吉田総代長さん公私共にお忙がしい中を御足労頂きましてほんとうに有難うございませぬ。こうしてお二方のご臨席のもとに差上げたご案内の通りに、ご任職さんの御挨拶、経過説明が行なわれ役員承認会則等の審議事項もスムーズに終了致しました。ことに木下町長さん、吉田総代長さんのお祝辞を頂きました。これは、この結成式に尤も有意義なこととございませぬ。

「朝日寺密教婦人会」結成さる

会長 児玉道子

町長さんは密教婦人会の結成を大変喜んで下さいました。そしてご期待下さいまして、青少年の非行問題に触れられ、家庭や、ことに母親の私共が如何に大きなお話を下さいます。今後の密教婦人会の活動に一つの示唆をお与え下さいませぬ。私共も深く領いた次第でございませぬ。

檀那寺と檀家と云う結び付きが何時の時代から出来上つたものか私には判らない。然し仏教の伝来が今から千三百八十三年前の欽明天皇の時代と伝えられ、其の後各地に国分寺が創建され、国民が仏教を受入れて信仰する様になつてからの事に相違ない。吾等の祖先は夫れ夫れの宗教を持ち、家系に伝えて今日に至つて居る訳で、吾等の宗教は弘法大師を始祖とする真言宗で、今日全国で四十八宗派、一万一千八百二十三寺の裡の一寺院庄田山朝日寺を檀那寺として居る持である。昔は密教寺院は一種の戸籍権を執り、寺院の承諾なくして埋葬一切の事が出来なかつた。然し時代の変遷と共に、現代では信教の自由と共に当局の埋葬許可書一本で葬儀の行える時代となり、寺院も檀家の上に胡座(あぐら)して居る訳に行かなくなつた次第である。然しながら時代が如何に変わつても、檀那寺と檀家の結び付きは永遠に変わる事のないものと考えられる。

ご詠歌によせて

尻海 小川良子



ご詠歌隊の方々

「人様をうらやみ、世間をぐる言葉より、下手でもご詠歌をお聞かせする方が仏壇の皆さんも喜んで下さる」と思ふ心にお聞かせ下さいませぬ。更に「ご詠歌の修業をするからは、口先だけの空念仏に終らせてはいけません、お大師様を身近に感じ、生かされあふ幸に感謝し、先祖を敬い、信心を怠らなければ、相互共養の功德によつて子孫繁栄は疑いなしと信じて、めまぐるしい社会多忙な家庭内で、自分出来る受持場所、仕事を見つけて、家族にうとまれることなく、喜んでもらえる余生を送りたいと願う昨今でございませぬ。

去る十二月一日高野山、金剛流詠監、折山泰教先生の講習会に受講の機会に恵まれました。詠歌道では大変位の高いお坊様で、お法話をまぜながらの講習でございませぬ。中でも、ご詠歌は美声でなくともよい、誠の心で教典(音譜)通りに、正しく忠実にお唱えするのが一番大切なことと教えて頂きました。一番いけないことは、慢心の上で、てんぐになつてはいけません。信修は讃歌の先、礼拝は供養の後、これは流祖の言葉でございませぬが、ご詠歌を唱える前に、ありがたひと感じる誠の心になりなさい。お供物をいたし、ねんごろにおまつりした後には手を合せお拝みなさい。と私は文字通りに解釈しております。お話を上げます時も、茶湯の時にもあてはまる動作と心のお作法だと思ひます。

只今尻海組は十二名、毎月第二・第四水曜日練習日と定め、コミニティセンターで夜七時半から仏縁によつて手を繋いだ同門として、和を大切に、楽しく精進しております。五十九年は弘法大師御入定千五十年忌の大法会の年でございませぬ。皆、元気で揃つて高野山に参拝したいと話合つております。ご詠歌は声の悪いのはかまいません。老若男女をいませぬ。皆様の入門をお勧め致します。

檀那寺と檀家と云う結び付きが何時の時代から出来上つたものか私には判らない。然し仏教の伝来が今から千三百八十三年前の欽明天皇の時代と伝えられ、其の後各地に国分寺が創建され、国民が仏教を受入れて信仰する様になつてからの事に相違ない。吾等の祖先は夫れ夫れの宗教を持ち、家系に伝えて今日に至つて居る訳で、吾等の宗教は弘法大師を始祖とする真言宗で、今日全国で四十八宗派、一万一千八百二十三寺の裡の一寺院庄田山朝日寺を檀那寺として居る持である。昔は密教寺院は一種の戸籍権を執り、寺院の承諾なくして埋葬一切の事が出来なかつた。然し時代の変遷と共に、現代では信教の自由と共に当局の埋葬許可書一本で葬儀の行える時代となり、寺院も檀家の上に胡座(あぐら)して居る訳に行かなくなつた次第である。然しながら時代が如何に変わつても、檀那寺と檀家の結び付きは永遠に変わる事のないものと考えられる。

吾等の祖先は夫れ夫れの宗教を持ち、家系に伝えて今日に至つて居る訳で、吾等の宗教は弘法大師を始祖とする真言宗で、今日全国で四十八宗派、一万一千八百二十三寺の裡の一寺院庄田山朝日寺を檀那寺として居る持である。昔は密教寺院は一種の戸籍権を執り、寺院の承諾なくして埋葬一切の事が出来なかつた。然し時代の変遷と共に、現代では信教の自由と共に当局の埋葬許可書一本で葬儀の行える時代となり、寺院も檀家の上に胡座(あぐら)して居る訳に行かなくなつた次第である。然しながら時代が如何に変わつても、檀那寺と檀家の結び付きは永遠に変わる事のないものと考えられる。